

福井における地域でともに考え支え合う共助型交通の取り組み

～クルマに頼り過ぎない交通空白地の交通まちづくり～



川本 義海（福井大学学術研究院工学系部門）
 堤 宗和（福井県地域戦略部交通まちづくり課）
 粕谷 興正（福井県地域戦略部交通まちづくり課）

クルマに頼り過ぎない社会づくりにおいて、とくに過疎と高齢化が進む中山間地のモビリティ確保が求められている。そこで住民が主体となり地域でともに考え支え合う共助型交通に注目し、住民、自治体、交通事業者などが協働して公共交通空白地を解消し、まちづくりに貢献することを目的として、これらの取り組みを事例集・実践ヒント集にして「見える化」した。また地域ぐるみの取り組みを身近に感じてもらうための交流と知見の共有を行った。

クルマに頼り過ぎない社会づくり推進県民会議

設立時期 2011年10月（第1回県民フォーラム開催）
構成員 令和5年3月1日現在、256企業・団体（福井県、17市町、企業、各種団体、学識経験者）
事務局 福井県地域戦略部交通まちづくり課
活動内容 各種マップ作り（公共交通、自転車）、イベント等でのPR活動、県民運動推進月間の実施（10・3月）と広報 など



事例集（2022年3月）



実践ヒント集（2023年3月）

交通空白地公共交通確保調査について（福井県）
<https://www.pref.fukui.jp/doc/sokou/koutuukuhakuchi.html>

運行団体名	福井市高須町 自治会輸送活動
運行方法	<ul style="list-style-type: none"> 輸送エリア：集落と最寄りの病院、公共施設、スーパーなどを繋ぐ路線 運行頻度等：週3日（火・木・土）の午前・午後の各往復（7時、15時） 予約等：乗車予定の前日夕方までに自治会長に予約 運行車両：ワンボックス車（10人乗り）を市から自治会に無償貸与 料金：1回250円でガソリン代相当のみ負担。その他活動に必要な経費は自治会費で対応。
運営体制	自治会輸送活動運営協議会の下で運営。運転者は二種免許所有者および国土交通大臣認定者講習修了者。

1 福井市高須町 自治会輸送活動

A 実施主体 高須町自治会輸送活動運営協議会
 B 自治体 福井市
 C 交通事業者 —
 D 住民 高須町自治会員

5 吉田郡永平寺町 近助タクシー

A 実施主体 志比北振興連絡協議会
 B 自治体 永平寺町
 C 交通事業者 —
 D 住民 志比北地区・鳴鹿山麓地区

運行団体名	志比北振興連絡協議会
運行方法	<ul style="list-style-type: none"> 運行エリア：志比北・鳴鹿山麓の2地区住民の自宅から町内の目的地（スーパー、鉄道駅、病院、公共施設等）まで。 運行頻度等：平日のみ 予約等：電話で予約センター（まちづくり課ZENコネクト）に要予約。または利用している福祉施設、通院先からでも可。 運行車両：福井県トヨタ販売店各社による支援を受けたリースのワゴン車（利用定員：6人、乗降口にステップ・手摺付き） 料金：大人300円、小学生50円、1カ月定期大人4000円
運営体制	志比北振興連絡協議会の下、まちづくり課ZENコネクトと連携して運営。運転者は二種免許所有者および国土交通大臣認定者講習修了者。地域住民による有償ボランティア。9名のドライバーが半日勤務。

運行団体名	明倫買い物クラブ&みそみ買い物メイト
運行方法	<ul style="list-style-type: none"> 運行エリア：地区内に住む買い物に困っている高齢者等の町内の買い物先への送迎 運行頻度等：明倫買い物クラブ⇒週2日（木・金）みそみ買い物メイト⇒週3日（月・火・水） 予約等：利用しない場合や利用日の変更がある場合は1週間前までに社協に要連絡 運行車両：ワンボックス車（10人乗り）を町社会福祉協議会から無償貸与 料金：明倫買い物クラブ⇒ガソリン代100円/回。不足分は明倫地域づくり協議会が補填
運営体制	みそみ買い物メイト⇒協力金（ガソリン代）200円/回。 有志のボランティアグループの下で運営。運転者の国家資格等（二種免許所有者および国土交通大臣認定者講習修了者）は問わず。ただし、明倫買い物クラブでは75歳以上で運転ボランティアは選任。

2 三方上中郡若狭町 「明倫買い物クラブ」&「みそみ買い物メイト」

A 実施主体 明倫買い物クラブ・みそみ買い物メイト
 B 自治体 若狭町
 C 交通事業者 —
 D 住民 三十三地区・明倫地区

3 今立郡池田町 町民協働バス「のってこ」

A 実施主体 池田町
 B 自治体 池田町
 C 交通事業者 —
 D 住民 全町民

運行団体名	池田町
運行方法	<ul style="list-style-type: none"> 運行ルート：池田町内（町内はどこでも乗降可能）⇄ JR福井駅東口・高志高校・和田公民館・東部プラザ・済生会病院（いずれも福井市内）。平日：4便（一部、デマンド便）、土日祝日：3便（全て予約便） 予約等：電話または公式LINE 運行車両：町所有のワゴン車（利用定員：9人）で一人掛けシート、Wi-Fi・読書灯・USB電源ポートを装備 料金：大人（中学生以上）：1,000円、小学生：500円、小学生未満：無料（※片道の運賃。降がりは半額。町民割引で高校生以上500円、小・中学生：無料、通学定期3,000円/月）
運営体制	運行管理は池田町。運行管理や車両管理、点検業務等を役員職員が実施。運転者は二種免許所有者および国土交通大臣認定者講習修了者で池田町民6人。有償（給与、1回あたり）制。定年制についてはおおむね70歳までで検討中。

運行団体名	一般社団法人内浦ぐるりん倶楽部
運行方法	<ul style="list-style-type: none"> 運行ルート：高浜町 上瀬・神野浦・音海 ⇄ 旬工房、業務スーパー、フレッシュバザール、五条、JR東武高浜駅（南口）、舞鶴共済病院、舞鶴医療センター 運行頻度等：平日：3便（毎週2日のみ運行、週によって方面毎に運行日が変わる）他日にスーパーで折り返す便「ささつと買い物号」（木曜1便）あり 予約等：定時定路線のため予約不要 運行車両：町が無償貸与するワゴン車（利用定員：9人） 料金：乗車時の料金徴収無し（運営費は町からの補助と地元負担（区費等））
運営体制	一般社団法人内浦ぐるりん倶楽部の下で運営。運転者は二種免許所有者および国土交通大臣認定者講習修了者。

4 大飯郡高浜町 内浦ぐるりんバス（ぐるりん号・ささつと買い物号）

A 実施主体 （一社）内浦ぐるりん倶楽部
 B 自治体 高浜町
 C 交通事業者 —
 D 住民 内浦地区

6 鯖江市河和田地区 ちょいボラ交通

A 実施主体 （一社）地域公共交通鯖江
 B 自治体 鯖江市
 C 交通事業者 —
 D 住民 河和田地区

運行団体名	一般社団法人地域公共交通鯖江
運行方法	<ul style="list-style-type: none"> 運行エリア：鯖江市河和田地区住民の自宅から鯖江市内の目的地（スーパー、鉄道駅、病院、公共施設等）まで。 運行日時間帯：平日のみ8時30分から21時30分 予約等：配車アプリあるいは電話で予約 運行車両：ドライバーの自家用車（保険は個人の保険加入で対応） 料金：タクシー料金の6割。キャンセル決済済または現金（チャージ方式（前金制、当日にチャージも可）で当日利用はそこから差し引かれる方式です）。
運営体制	一般社団法人地域公共交通鯖江が運営（理事は鯖江市のタクシー会社の社長。運転者は二種免許所有者および国土交通大臣認定者講習修了者で地域住民による有償ボランティア。ドライバーは8人（実働は4人程度）。ドライバーの報酬は利用料金の50%。



課題と課題

単独でドライバーとして運転するのではなく、地域の見守りをしていくといった意識をお互いに確認し合いながら、地域のためにやってくれるという共通の思いを、地域の人々に届けていくことが大事。利用者からの急な時間の変更への対応は大変であるため、今後はAIを利用した配車システムなども重要。また利用者も、お互いに寄り添っていただく意識の共有と相互理解が重要。また介護タクシーと近助タクシーのすみ分けをどう考えるかも課題。

なお近助タクシーのさらなる活用として、小学校児童の送迎（下校、学校行事）や弁当宅配（2020.5実施）、日本郵便と連携した資材運搬（2021.2実施）もしている。

関係者の声

運行団体

近助タクシーのドライバーを認めるに当たり、地域に根ざりた移動が日々の生活に必要不可欠であることに加え、これまでとは違う新たな形の住民との協働の機会が増えていることにも感じています。利用者の声（ありがとう）の一言が、我がドライバーとしての誇りとなり、車内でのコミュニケーションを交わしながら、元気のよい一日を過ごしています。また、利用者の声（ありがとう）の一言が、我がドライバーとしての誇りとなり、車内でのコミュニケーションを交わしながら、元気のよい一日を過ごしています。また、利用者の声（ありがとう）の一言が、我がドライバーとしての誇りとなり、車内でのコミュニケーションを交わしながら、元気のよい一日を過ごしています。

利用者住民

善後の高齢者や買い物難民、週2回の老人センターへの行き帰りに利用しています。運転手さんがとても親切で、1人暮らしの私にとっては車内の会話がとても嬉しく、利用者の声（ありがとう）の一言が、我がドライバーとしての誇りとなり、車内でのコミュニケーションを交わしながら、元気のよい一日を過ごしています。

市町担当者

地域住民の意識を行動のきっかけにするために、住民が主体となった取り組みを開始して2年が経過しました。従来の行政主導型ではなく、住民が主体となり、自治体はサポートする体制を整え、地域ぐるみの取り組みを進めています。また、利用者の声（ありがとう）の一言が、我がドライバーとしての誇りとなり、車内でのコミュニケーションを交わしながら、元気のよい一日を過ごしています。

事例集（2022年3月）より

STEP1 下準備 その1 現状を把握し、方向性を描く

A 実施主体（その地域の住民、自治体職員、交通事業者など）

1 住民が抱える移動に関する不満や困りごとを知る

- 乗降場所や車を持たない高齢者、また免許返納者が自分自身では買い物や病院に出掛けない
- 高齢者の移動手段に困っている人を見つけておく
- 高齢者が交通が不便で買い物や病院に行きづらかったという声がある
- バスの路線が廃止されたことで、町外への通学や通院、通院の経路が断たれてしまっている
- 地区住民の日常生活である娯楽の舞鶴への移動手段が課題
- 高齢者にとって既存のバスでは自宅から乗降所までの距離が長い
- 公共交通の手段がコミュニティバスがなく、タクシー空白地であるが、鯖江市内ではどこにも不便な地域

2 既存サービスの路線や運行ダイヤを確認し、不便な理由を明確にする

- 車庫内に既存のバスは1台しかなく、また乗降のしづらな乗り合いタクシーまでは約5キロメートルも歩いていく必要があり、また近隣のタクシー事業者がない
- 多くの住民が利用している病院からの無料送迎バスはあくまでの、曜日固定の週1回のみ
- 移動販売車は週1回運送しており、買い物は一定である
- 現在は町のデマンド交通があるが、当時は定時定路線型で自由度が高かった
- 利用者により既存の路線廃止の危険が迫る
- 町内のオンデマンドバスは利用できないものの、バスの基地から離れた地域の特性から予約が取りにくい
- 自宅や目的地への移動手段が課題
- 町のコミュニティバスがあるものの、乗車時間が長く、またタクシーの空白地である

3 目標を立て、取り組むべき課題を明らかにする

- 高齢化が進む車を持たない住民の移動の足確保を確保する
- 高齢者や障害者に対する移動手段を確保する
- 廃止予定の路線バスの代替手段を確保する
- 乗降場所内の買い物、病院に行けるようになる
- 自宅や目的地への移動手段が課題
- 町のコミュニティバスがあるものの、乗車時間が長く、またタクシーの空白地である
- 町のコミュニティバスがあるものの、乗車時間が長く、またタクシーの空白地である

B 開拓者のレベルを決める

- 運行車両は市から無償貸与で確保し、運行管理とドライバー確保は地元住民でお願いし、自治会が資金面でも面的に協力する
- 地区住民が主体となりドライバーを確保
- 地区ぐるみで運行する
- 地区ぐるみで運行する際のドライバーの確保や運行管理のすべてを（仮）実施主体は地区から独立した形で一般社団法人（仮）とし、法的な手続や法的なリスクをクリアし、行政が後方支援、車両は行政から無償貸与
- 地区住民が主体となりドライバーを確保
- 地区ぐるみで運行する
- 地区ぐるみで運行する際のドライバーの確保や運行管理のすべてを（仮）実施主体は地区から独立した形で一般社団法人（仮）とし、法的な手続や法的なリスクをクリアし、行政が後方支援、車両は行政から無償貸与

実践ヒント集（2023年3月）より

（参考）地域で考える「移動の仕組み 8STEP - START BOOK -」
 一般財団法人 トヨタ・モビリティ基金 2022.9 発行（2023年5月改訂第2版）



交通空白地における公共交通確保 講演会・交流会（2021.12.12）



交通空白地における公共交通確保 実践セミナー（2022.12.11）



福井新聞20211201



福井新聞20220901

新たな取り組み